

## 「母」の私、「先生」の私



2025年3月

保育教諭 0歳児担任 箱田 裕子

今回「母」の私、「先生」の私というテーマをいただきました。私は、瀬戸こども園ではたくさんの可愛い子どもたちに囲まれながら「先生」として働いていますが、家へ帰れば今年度5歳と2歳になる2児の「母」でもあります。先生でもあり母でもある私についてお話していきたいと思います。

私は子どもの頃保育園の年長クラスの担任だった先生のことが好きで、憧れの気持ちから保育士を志しました。“子どもたちと関わることが好き”、“あの時(年長担任)の先生みたいになりたい”という思いを抱きながら、この仕事を続けています。特に初めて「先生」と呼んでもらえた時の喜びは、今でも忘れることができません。

今まで、こども園に通うたくさん子どもたち、そして保護者の方々と関わらせていただく中で、何人もの子どもたちの成長の喜びを共有し、また時には育児の悩みを打ち明けられることもあります。子どもの姿や思い・保護者の方の思いを受け止めながら、“こう関わってみてはどうか”と関わり方の提案をさせていただくこともあります。また園では、“こうしたらもっと楽しく遊べるかな？成長に繋がるかな？”と考え、保育を行っています。実際に母として我が子と向き合う時、園の“先生”のようにはいかないことばかり…。こうしたら良いのでは？と頭ではわかっていながらも、上手く関われずもどかしさを感じることもあります。自分の子どもを育てる中で保護者の方々の悩みに共感することも多く、「こんな姿があるけどどうしたら良いのかな…」と悩んだり心配することもあります。『あの時のお母さんはこう悩んでいたんだな、こんな思いで心配になっていたんだな…』と改めて考えさせられる事も…。子育てを通して、保育教諭としての視点と母としての視点の、両方から見た考えを持つようになりました。今後もこの2つの視点を大切に、保護者の方々の思いに寄り添った話や提案ができるように心掛けていきたいです。

私は、瀬戸こども園で働き始め、10年以上となります。たくさん子どもたちの入園から卒園を見届けてきました。小さな赤ちゃんだった子どもが一つひとつできることが増え、どんどんお兄さん・お姉さんとして成長していく姿を見届けられる事は、何年たっても喜びを感じます。日頃の関わりや行事を通しての姿から乳児クラスだった頃を思い返し、感動することも度々…そんな時には勝手ながら母目線の気持ちで見るとしばしばです。今後も、保護者の方々と共にたくさん子どもたちの成長を側で見届けさせていただきたいです。子どもたちからもらう笑顔のパワーに、一日一日を元気に明るく過ごしていきます。

